

<研修実施責任者> 岡井 隆広

・河北ファミリークリニック南阿佐谷 (臨床研修協力施設)

<研修実施責任者> 一戸 由美子

<指導医> 一戸 由美子、塩田 正喜【指導責任者】、矢作 栄一郎[※]、檜原 正基[※]、直宮 修平[※]、坪内 信彦[※]

所在地:東京都杉並区阿佐谷南 1-16-8 3階・4階・5階

・河北サテライトクリニック (臨床研修協力施設)

<研修実施責任者> 中島 富美子

<指導医> 中島 富美子

所在地:東京都杉並区阿佐谷北 1-3-12

・天本病院 (臨床研修協力施設)

<研修実施責任者> 舟木 成樹

<指導医> 舟木 成樹

所在地:東京都東京都多摩市中沢 2-5-1

・たけうち内科、成宗診療所、別府医院 (臨床研修協力施設)

<研修実施責任者> 竹内 明彦、加藤 章、別府 良男

<期間> 必須 1 ブロック

パターン1)

河北ファミリークリニック南阿佐谷 2週間+天本病院 1週間+地域診療所 1週間

パターン2)

河北ファミリークリニック南阿佐谷 2週間+地域診療所 1週間×2診療所

<指導体制>

研修実施責任者(指導医)のもと、上級医、上級研修医とチームを組んで診療にあたる。

<一般目標(GIO : General Instructive Objectives)>

- ① 研修医は、信頼される臨床医となるため、急性期医療を終えてリハビリテーションを行っている。
- ② 患者の社会復帰の診療に携わり、在宅療養、介護老人保健施設での医療を経験し、さらに診療所研修も行い、病診連携・プライマリケアを学ぶことを目標とする。

<到達・経験目標(SBOs : Specific Behavioral Objectives)>

- ① 在宅療養に必要な介護保険、訪問看護、訪問診療などについて理解する
- ② 指導医或いは訪問看護師と共に在宅訪問を行い在宅療養の実際を経験する
- ③ 地域の診療所で病診連携の実際とプライマリケアを経験する

- ④ 介護老人保健施設の実際を経験することで、これらの施設について理解する
- ⑤ チーム医療を経験する
- ⑥ 福祉との連携など社会資源の活用ができる

<方略(LS : Learning Strategies) >

- ① 指導医とともに社会復帰の準備をしている患者の診療にあたる。
- ② 指導医や訪問看護師や理学療法士とともに往診や家庭訪問をおこなう。
- ③ コメディカルとの合同カンファレンスに出席する。
- ④ 受け持ち患者の社会復帰に際し、地域の診療所の医師との連携を経験する。
- ⑤ 受け持ち患者の社会復帰に際し、社会福祉施設(介護老人保健施設)と連携を経験する。
- ⑥ 受け持ち患者の社会復帰に際し、ソーシャルワーカーとの連携を経験する。

<週間スケジュール>

(例) 河北ファミリークリニック

1 週目

	月	火	水	木	金	土
午前	訪問介護研修	デイケア研修	外来研修	訪リハビリ研修	外来研修	外来研修
午後	訪問介護研修	デイケア研修	訪問看護研修	訪問看護研修	MSW 研修	外来研修

2 週目

	月	火	水	木	金	土
午前	外来研修	外来研修	訪問診療研修	外来研修	外来研修	外来研修
午後	訪問診療研修	訪問診療研修	小児外来研修	訪問診療研修	ケアマネ研修	外来研修
夕方			ケースカンファレンス			

<評価(Ev : Evaluation) >

- ① 研修医による自己評価
 経験すべき症例を経験した際は、研修医手帳に記入する。
 各科研修ローテーション終了時にインターネットを用いた評価システムを入力することで評価する。
- ② 指導医による研修医の評価
 各科研修終了時に指導医がインターネットを用いた評価システムの入力と、定められた評価表を用いて評価する。
- ③ 指導医以外の医療スタッフによる360度評価を実施する。
- ④ 上記に加え、研修医講義やカンファレンス(CPC や死亡症例カンファレンスなど)、勉強会、抄読会など義務付けられた教育プログラムの参加状況を評価に加える。